

グローバルヘルス 合同大会 2020 大阪 第 61 回日本熱帯医学会大会, 第 35 回日本国際保健医療学会 学術大会, 第 24 回日本渡航 医学会学術集会第 5 回国際臨 床医学会学術集会合同大会

日時: 11 月 1 日 (日) ~ 3 日 (火)

会場: Web 開催

テーマ: チャンプール! 交じる, つながる, 支えあう (Campur! Integration, Solidarity and Collaboration)

プログラム: 4 学会合同記念フォーラム「コロナで露呈した国内外における医療へのアクセス」金子明 (大阪市立大学), 中村安秀 (甲南女子大学), 南谷かおり (りんくう総合医療センター), 中田研 (大阪大学)

／基調講演 1 「グローバルヘルスと COVID-19」 Michal R. Reich (Dept of Global Health & Population Harvard T.H. Chan School of Public Health)／基調講演 2 「The role of WPRO (Western Pacific Regional Office) for COVID-19 pandemic」

葛西健 (西太平洋事務局長)／基調講演 3 「Ebola Diseases from the perspective of global health」ジャン・ジャック・ムエンベ・タムフム (キンシャサ大学)／基調講演 4 「Travel Medicine after the COVID-19 pandemic」 Lin Chen (世界渡航医学会会長)／基調講演 5 「持続可能な開発目標 (SDGs) と COVID-19」 星野俊也 (国際連合日本政府代表部大使次席常駐代表)

／基調講演 6 「ウィズ・コロナ時代のユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」 武見敬三 (UHC 親善大使)／基調講演 7 「Global Health

Collaboration before and after the COVID-19 pandemic」／基調講演 8 「グローバルヘルスに向けた日本医師会の活動」 中川俊男 (日本医師会会長)／4 学会合同・理事長パネル・ディスカッション「コロナ後のグローバルヘルスの未来像」 狩野繁之 (日本熱帯医学会理事長), 中野貴司 (日本渡航医学会理事長), 神馬征峰 (日本国際保健医療学会理事長), 中川俊男 (国際臨床医学会理事長)

運営事務局: 株式会社 JTB 西日本 MICE 事業部

〒541-0058 大阪府大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 MPR 本町ビル 9 階

☎ 06-6252-5049

✉ gh2020@jtb.com

第 51 回 (2020 年度) 日本看護学会学術集会 —ヘルスプロモーション

日時: 11 月 1 日 (日) ~ 30 日 (月)

会場: Web 開催

参加受付期限: 11 月 15 日 (日)

参加登録費: 会員 9900 円, 非会員 1 万 4850 円, 学生 4400 円 (税込)

運営事務局: 日本看護協会看護研修学校教育研究部学会企画課

☎ 042-492-9120

✉ jnagakkai@nurse.or.jp

第 26 回日本精神保健 社会学会学術大会

日時: 11 月 23 日 (月)

会場: Web 開催 (Zoom)

テーマ: メンタルヘルスにおける乗り越え力を高める危機状況

内容: 基調講演 宗像恒次 (SAT 情動認知行動療法研究所)／シンポジウム「新型コロナウィルス感染症

と SNS 相談」 新行内勝善 (東京メンタルヘルス), 「Web によるカウンセリングと対面によるカウンセリングからの学び」 中嶋一恵 (SAT 情動認知行動療法研究所)／ディスカッション

参加費: 一般 2000 円 (税込)

問い合わせ先: 日本精神保健社会学会事務局 (担当: 村上)

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

☎ 03-3986-3220

✉ murakami@t-mental.co.jp

地域社会振興財団 中央研修会

第 48 回看護師研修会

研修期間: 11 月 21 日 (土) ~ 22 日 (日)

会場: 自治医科大学地域医療情報研修センター (栃木県下野市)

テーマ: 認知症を理解し, 認知症患者の看護実践に必要な専門的知識・技術を習得する

狙い: 認知症患者を全人的に捉え, 入院療養における認知症症状の悪化を予防し, 安全かつ円滑に治療・看護が受けられるよう援助するための知識・技術を習得する。※平成 30 年度診療報酬改定「認知症ケア加算 2」対応研修

主な内容: 認知症の病態・治療／高齢者の精神疾患／認知症患者に対する看護技術・コミュニケーション方法・療養環境の調整方法・せん妄の予防と対応法／認知症に特有な倫理的課題対応・アドボカシー・意思決定に関わる問題・身体拘束に関わる問題・告知に関わる問題／事例を基にした看護過程 (演習)／他

対象者: 認知症患者に関わる看護職または認知症ケアに関心がある看護職

定員：40 名

受講料：1 万 8000 円（税込）

申込方法：下記 URL 受講申込書に記入の上、郵送

申込・問い合わせ先：地域社会振興財団事務局研修課

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-160

☎ 0285-58-7436

✉ fdc@jichi.ac.jp

URL www.zcssz.or.jp

第 85 回 日本健康学会総会

日時：12 月 5 日（土）、6 日（日）

会場：Web 開催

テーマ：いま、あらためて「健康」を問う

プログラム：学会長講演「いま、あらためて『健康』を問う」三砂ちづる（津田塾大学）／シンポジウム 1「Human Ecology と感染症—COVID-19 から考える」：メイン講演 中澤港（神戸大学）、「Human Ecology から考える新型コロナ対策」門司和彦（長崎大学）／「感染症と現代社会」渡辺知保（国立環境研究所）／特別講演「出生前診断の歴史と現在」横山尊（九州大学）／シンポジウム 2「アントノフスキーの健康生成論とその後の展開を語る」：講演 山崎喜比古（日本福祉大学）、「社会経済的地位とストレス対処力概念 SOC との関係からみた健康生成論と健康生成モデルの今日的な意義と可能性」戸ヶ里泰典（放送大学）、「Sense of coherence の心理学における活用」堀毛裕子（東北学院大学）／教育講演 1「コロナ時代にワクチンという近代医療が醸し出す幻想」中村安秀（甲南女子大学）／教育講演 2「ゆる体操の理論と実践」高岡英氣（敬愛大学）／教育講演 3「安心安全のための医療制

度—医療経済学から考える」井伊雅子（一橋大学）／教育講演 4「リスクファクター概念の誕生—フラミンガム研究とロジスティック回帰モデル」丹後俊郎（医学統計学研究センター）

参加登録期限：11 月 14 日（土）

参加費（事前のみ）：会員 1 万円、非会員 1 万 3000 円、学生 3000 円
※講演集（郵送）含む

総会事務局：津田塾大学学芸学部多文化・国際協力学科 三砂研究室

✉ jshhe85@gmail.com

第 9 回日本公衆衛生 看護学会学術集会

日時：2020 年 12 月 25 日（金）～2021 年 1 月 24 日（日）

会場：Web 開催（Zoom 等）

テーマ：公衆衛生看護の責任と実践—誰も取り残されない「社会的包摂」の実現をめざして

開催スケジュール：12 月 25 日（金）メインプログラム講演掲載開始（オンデマンド配信）／2021 年 1 月 9 日（土）、10 日（日）メインプログラム質疑・意見交換実施／1 月 9 日（土）～24 日（日）一般演題発表・ワークショップ掲載（オンデマンド配信）

テーマ：公衆衛生看護の責任と実践—誰も取り残されない「社会的包摂」の実現をめざして

プログラム：会長講演「公衆衛生看護の責任と実践—誰も取り残されない「社会的包摂」の実現をめざして」大木幸子（杏林大学保健学部看護学科教授）／基調講演「ハンセン病対策の歴史から保健師の活動を照射する—公衆衛生看護の責任と実践をふまえて」木村哲也（国立ハンセン病資料館学芸員）／教育講演 1「私たちは思考し続けることができるか—ハンナ・アーレントから学

ぶ」矢野久美子（フェリス女子大学教授）／教育講演 2「水俣（MINA-MATA）の歴史に学ぶ公衆衛生の役割と責任」宮北隆志（熊本学園大学教授）／シンポジウム 1「貧困と孤立を越え地域に居場所を紡ぐために」：「生活困窮状況にある子どもと家族への保健活動」自治体保健師、「ハウジングファーストによる路上生活からの脱却」稲葉剛（つくろい東京ファン）、「HIV 陽性者のもつ生きづらさへの支援」生島嗣（ぶれいす東京）、「居場所がない妊婦からの SOS」中島かおり（ピッコラレ）／シンポジウム 2「療養者・家族中心の地域包括ケアシステム構築 1—療養者・家族の意思決定を支える」：「ナラティブアプローチ—物語ることの意味」宮坂道夫（新潟大学大学院保健学研究科）、「神経難病療養者と家族の療養生活の選択を支える」倉下美和（東京都多摩府中保健所）、「ICT を活用した患者のものがたりと語りの共有による在宅医療」伊藤伸一（秋田県医師会）、「人生と生活に寄り添う支援への ICT の可能性」丹野清美（国立病院機構東京医療センター）／公衆衛生看護技術セミナー 1「公衆衛生看護技術を見える化する」佐伯和子（北海道大学）／公衆衛生看護技術セミナー 2「公衆衛生看護の責任を継承する—『宮本ふみ』が残した実践者へのメッセージ」：「地域と住民によりそい協働する支援—宮本ふみさんと共に築いた活動」塚原洋子（なごみ研究所）、「宮本ふみさんが実践し、発信した保健師の技術」佐野信也（防衛医科大学）、「先達の足跡から学ぶ保健師のまなざしと技術」東京都保健師、「『無名の語り』をとおして保健師教育課程で学生伝える保健師の技術」福本久美子（九州医療福祉大学）／特別セミナー「介護者支援に

よる地域づくり活動と保健師への期待」牧野史子（介護者サポートネットワークセンター・アラジン）、介護者／パネルディスカッション1「DV 被害者支援と児童虐待予防との連携」加茂登志子（若松町こころとひふのクリニック）、心理職（女性相談センター）、保健師（子ども家庭支援センター）、養護教諭（学校保健）／パネルディスカッション2「療養者・家族中心の地域包括ケアシステムの構築—多様な課題をもつ療養者と家族を包摂する地域包括ケアシステムの構築」：「難病療養者の生活課題と地域ケアシステム」岡田美保（東京都保健政策部疾病対策課）、「HIV 陽性者の抱える多様なケアニーズのためのネットワークづくり」自治体保健師、「医療的ケア児の地域生活を支える地域ケアシステム」谷口由紀子（淑徳大学）、「障害児・障害者を支える地域ケアシステムづくり」相良裕美（多摩市健康福祉部障害福祉課）／パネルディスカッション3「風水害発生の2次被害・災害関連死を予防するために」奥田博子（国立保健医療科学院）、松野今日子（八王子市保健所）、防災担当者／シンポジウム3「災害とリスクコミュニケーション」／特別企画「検証！ 新型コロナウイルス感染症対策」／宮本ふみ企画展「宮本ふみさんのメッセージ」／ハンセン病資料館企画展「ハンセン病の歴史を学ぶ」／水俣学企画展「MINAMATA から学ぶ水俣学」／一般演題／ワークショップ／学会活動報告（会員集会）／等

参加登録期限：2021 年 1 月 4 日（月）

参加費：会員 7000 円、非会員 8500 円、学生 2000 円

学術集会事務局：杏林大学保健学部看護学科

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

✉ japhn9@ks.kyorin-u.ac.jp

運営事務局：

〒456-0005 愛知県名古屋市中熱田区池内町 3-21 株式会社ユピア内

☎ 052-872-8101

✉ japhn9@yupia.net

🌐 japhn9.yupia.net

開催情報は 10 月 1 日現在のものです。最新の情報は主催者にお問い合わせください。

● ● ●

本欄へ掲載を希望する学会・研究会・講演会などのお知らせがありましたら、本誌編集室までお送りください。

● ● ●

〒113-8719

東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 03-3817-5774

✉ hokenshi@igaku-shoin.co.jp